



# ピーターの法則

## The Peter Principle

ローレンス・J・ピーター

編集 Jun Hirabayashi [jun@hirax.net](mailto:jun@hirax.net) 2 版

# 「ピーターの法則」と「ピーターの必然」

- 階層社会では、
  - すべて的人是は(現在の地位において有能ならば)昇進する
  - (いずれは)その人の「無能レベル(職務を遂行する能力が無い)」に到達
    - = 職務を遂行する能力が無くなると、それ以上は昇進しない
- 組織に「十分な地位」と、「十分な時間」がある場合
  - 全ての個人は、その人の「無能レベル」まで昇進し、そこに留まり続ける
  - やがて「あらゆる地位は、職責を果たせない無能な人間で占められる」
- 「仕事は、まだ無能レベルに達していない人により行われている」
- 真の「無能レベル」になりたくなければ、「無能」に見せる
  - 昇進しない。「創造的無能」は「昇進拒否」に勝る
  - 変人ぶりを発揮する。(例: 普通でない服装、異常に汚い机)

# 「無能への道」と「適性検査」で素早く無能に

## ■ 昇進は「無能への道」の一里塚

- 有能な教師・技術者たちが昇進したとたん、無能な管理者になる...

## ■ 適性検査

- 「少ない昇進回数で無能レベルに達することができる」

- 1番最初の役割: その人の適性に合い能力を発揮

- →すぐ昇進し次の役割へ進む

- 2番目の役割: 適性に合わない(少なくとも最高ではない)

- →無能レベルに一コマ進む。

- 例: プログラマからマネージャへ昇進

- (適性に合う)スーパー・プログラマがスーパー無能マネージャに

## ■ 組織の上層部は死屍累々

# 階層社会の効率

- 「階層社会の効率は、その成熟指数に反比例する」
  - 成熟指数(MQ: Maturity Quotient)
  - $MQ = \text{無能レベルに達した人数} / \text{階層社会の総人数} \times 100$
- 成熟指数が100%の社会
  - 全員が「無能レベル」に達している
  - 有益な仕事が行われない
  - =「十分な時間と地位がある成熟した社会」は「無能の世界」

# 「階級社会」と「無能レベル」

## ■ 無能レベルに達する人の人数

- 階層社会に存在する「地位」の数に比例する

## ■ 平等社会より階級社会の方が効率が良い

- 被支配階級:

- 無能レベルまでは昇進しない(身分境界線以上には行かない)

- 支配階級:

- 「地位」の数が少ない少数社会
- 無能レベルに到達しなくて済む

# 階層社会のオキテ(掟)

- 「階層は維持されなければならない」
- 階層的厄介払い
  - すごく有能な人は排除される
    - 階層社会をめちゃくちゃにしてしまう
  - すごく無能な人も排除される
    - 階層の内部基準に従えない

# 人が「無能レベル」であるかを知る方法

- 「その人は何か有益な仕事を成しつつありますか？」
  - イエス → その人はまだ「無能レベル」に達していない
  - ノー → その人は立派な「無能レベル」
  - わからない → あなたが「無能レベル」に到達している

# コンピュータにおけるピーターの法則

- 計算機自身に欠陥があり「無能」かもしれない
- 計算機が有能でも使う人が無能→無能さを拡大
  - 無能なものが有能なものを使う = すさまじく無能
  - 無能 x 有能 = すさまじく無能
- 計算機がピーター法則に陥る
  1. 計算機が役立つ
  2. 計算機の役割が昇進し
  3. 「計算機にはできないこと」をしなければならなくなる
  4. = 計算機もやはり「無能レベル」にたどり着く